

LPガスCP情報(2016年7月積み)

1. 7月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **295** 円 (前月比-35円)

ブタン **310** 円 (前月比-55円)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油・石油製品市況が乱高下する中、LPガス市場は、供給が潤沢なうえ消費国の在庫が高く不需求期でプロパン、ブタンともに需給は緩和。スポット市況は、CP先物が原油市況に追随し第2週、第3週と堅調に推移したが、第4週に原油市況急落で下げた。フレート市況が需給緩和で軟化したため、極東CFR市況も弱含みプロパン325円、ブタン345円どころで推移、ディスカウント市況となっていた。ナフサは原油市況に連れ続伸、月間平均では425円、前月比8円の上昇となり、ナフサ高ブタン安で石化のブタン需要が期待されたが限定的。バンカーオイルは、月間平均では239円、前月比16円の続伸。一方、米モンベルビュープロパンスポット価格は、需要期終了で全米プロパン在庫が増加したものの原油市況に追随、20日はプロパン265円に反発。なお、26日に新パナマ運河開通、米国～アジアLPG新時代の幕開け。予想を下回った7月CPはMBを見据えての設定か？

7月CPは前年同月比プロパン100円、ブタン115円のそれぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン15ポイント、ブタン21ポイント下落、前年同月比プロパン1ポイント、3ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	27	26	26	27	27
CP先物指標：P	320	320	325	310	319
CP先物指標：B	350	350	355	330	346

② 原油市況等

WTIは6月49.01円でスタート、2日のOPEC総会では生産目標の設定が見送られ、米石油掘削リグ稼働数が増加したことを嫌気し3日には48円台まで下げたが、ナイジェリアの武装集団による石油施設への攻撃で7日には50円台を回復した。中旬には英国EU離脱を決める国民投票を控えリスク回避の動きや米リグ稼働数の増加、世界的な石油の超高水準在庫などから続落し16日には46.21円まで下げたが、英下院女性議員殺害によるEU残留観測や米ドライブシーズンの需要増期待、対ユーロドル安などを受け23日に50円を回復した。24日英国国民投票の結果EU離脱が決定されると、リスク回避の動きが強まり世界的株安、ドル高で急落、週明けには世界的経済不安、エネルギー需要減退懸念で46円台に続落した。

一方、NYMEXのWTI総取組高は27日時点で168万枚、前月末比1.2万枚の減少。大口投機玉の買越残高は21日で31.9万枚と前月比3万枚の減少、買い建玉が減少し売建玉が増加。

○6月積みアラビアン・ライト(6月1～27日)は46.5円(前月比+3.04円)

熱量等価AL100% プロパン381.25円/トン ブタン376.02円/トン

AL比 プロパン77.38% ブタン82.44%

***上記アラビアン・ライトはEIN推計値、確定値は後日、Webサイトでご確認ください。**

2. 2016年7月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用期間	TTS	P:円建CP	B:円建CP	P前月比	B前月比
21～20日①	108.99	34,100	36,800	-2,000	-4,200
26～25日②	107.93	33,700	36,400	-2,400	-4,600
1～30日③	106.76	33,400	36,000	-2,700	-5,000

*TTS平均は①が5月21日～6月20日まで、②は5月26日～6月25日、③は6月1～28日まで、①、②、③ともに7月仕切適用。①、②、③いずれも前月・当月CP50%案分。なお、6月24日は英EU離脱国民投票により急激な円高となり、TTSは午前106.76円/円から午後101.76円/円に修正された。上記TTS平均は修正後の101.76円/円を採用している。(詳細はWEBサイトのLPガス価格推移表等を参照)。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、CPコスト変動分と実際の仕切と異なるケースがあります。更に、税制、価格制度変更や為替レートの急変動等もあり、改定幅についてはご注意下さい。